

例会報告：2014年10月7日（晴れ）第1861回 通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2014年10月7日 12：30～13：30

◆ 会長挨拶



齋藤 永 会長

皆さんこんにちは、昨日は大きな台風が関東を直撃して被害が出ております。皆さんの所は、どうでしたか？本当に自然災害は恐ろしいものです。まだまだ油断はしてられませんこれから次の台風が週末には来るといっておりますので、十分注意をして頂きたいものです。

さて今日のお話のテーマですが、「他人に惑わされなくて、自分を貫こう」という事で、今日のことばは、二つあります。一つ目は（汝の道を歩め、人々をしてそのうにまかせよ。）これはイタリアの詩人でもあり哲学者のことばです。自分の意見や主張を話す前に、周りの人のいう事を気にしたり、世間の評価、価値観や風評などを気にしてしまう人が最近とても多いような気がします。あなたはどうでしょう。たとえばテレビ番組の司会者の質問に対して、自分の意見を考える前にどうしてもパネラーとして並ぶゲストの意見が気になっていませんか。

他人に合わせなければ、なにかと自分の意見や行為を決められないことが多い私たち。でも、そのような生き方は、あまりにも無責任で周りの意見に流され過ぎだと反省しなくてはならないと思うのです。自分の進むべき道が明確になっていれば、そのように周りの人や世間の意見が気になることはないはず。

そこで二つ目のことば（世の人はわれをなにともいわばいえ 我が為すことは我のみぞ知る）これは幕末の志士・坂本龍馬の名言です。（いいたいことがあるやつには、好きなだけいわせておけ。俺のやることは俺しかわからない）という意味です。やはり、大きな志がある人は周りの雑音に惑わされずに自分を貫く気概があるのです。私たちもこのような生き方はきっと出来るはず。まずはあなた自身の進むべき道を見つけてみませんか？つまり明確な目標やポリシーを持てば、他人のことばに影響されて軸がぶれてしまうことはなくなります。考え方の基準となる「道」を決めて、進んで行きましょう。

私たちは今、ロータリーライフの中で明確にある標語「超我の奉仕」を目的に進んでいます。これを目指しともに助けあってきてる仲間がここに集っています。みんなで決めた道を進んで行ければと思いますのでご協力よろしくお願いいたします。

今日もよろしく願いいたします。

◆ 幹事報告

大川 久弥 幹事



1)10月26日に湯河原産業まつりに於いて、第9グループのEND PORIO NOW キャンペーンが開催されます。各クラブよりお手伝い2名の要請がきておりますので、ご協力できる方はお申し出下さい。

2)卓話時間についてですが、10月28日の卓話は10分、11月4日の社会奉仕フォーラムでは30分延長となりますので、宜しくお願い致します。

- 3) 本日入会の臼井さんと石坂さんの所属委員会は会場監督です。また5人グループは臼井さんが清さんグループに、石坂さんが渡部さんグループになりますので、宜しくお願い致します。
- 4) 鈴木進会員より退会届が提出され理事会で受理されました。ご本人には改めて例会の中でご挨拶を頂く予定です。

◆ 出席報告

小川 和夫 委員長

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
10月7日	51(48)	39	0	81.25%
9月30日	50(47)	44	0	93.62%
9月16日	50(48)	43	0	88.37%

【欠席者】 9名
露木 清勝、石内 正彦、内山 修一、須藤 公司、荻野 善明、一寸木 信雄、中村 維孝、大川 裕、大野 英明

【今回MU】 0名
【前回MU】 増加なし
【前々回MU】 増加なし

◆ 卓話

「職業奉仕について」



地区職業奉仕委員会副委員長
藤沢RC幹事
長津 豊 様

小田原はウォーキングの盛んな街で、来月第16回ツーデーマーチが行われます。私は日本ウォーキング協会や神奈川ウォーキング協会の仕事にも関わっており、参加者としても歩いています。日本のウォーキング文化はまだ遅れていて、オランダなどは5万人参加の大会もあります。交通をストップさせ国王も出席する国家事業です。諸外国はウォーキング文化が盛んで自動車道・自転車道・歩道と完全に分離された道路が多くなっています。大人数の方が参加しても事故がありません。日本では小田原市がやっているツーデーマーチ5千人が限度かと思います。去年は伊勢神宮の遷宮式年で、日本ウォーキング協会がロングウォークを計画しました。11年かけて伊勢神宮まで歩くということで、私も11年間で約240km歩いてきました。そのように今まで20年間歩き続けています。

さて、我々のテーマである奉仕について。アメリカで言う『サービス』を『奉仕』と訳したわけですが、日本古来の奉仕という言葉の概念と外国人が使うサービスは少し意味が違うのではないのでしょうか。例えば外国のホテルでのチップは、受けたサービスに対するお礼という意味合いです。日本人の考える奉仕はそうではなく、自分の利益に繋がらないこと、他人のために尽くすことです。そういった言葉の違いもあり、職業奉仕というのは分かるようで分かりにくい。委員会メンバーが毎月激しい議論を重ねてきましたが、結局『よく分からない』が結論です。しかし諸先輩方は「あまり難しく考えるな。我々が企業・会社経営の中でコンプライアンス（順法精神）を順守しろ、というのと同じ。法律に則った良い仕事をするのがすなわち職業奉仕である、という日本的解釈でいいのではないか」と話しておられました。会社経営をする時、法律を守り、マナーを守り、倫理基準を逸脱しないような経営の仕方です。それが社会に寄与することであり従業員の幸せに繋がるもので立派な社会奉仕である、という考え方です。

クラブとしての活動を中心とした職業奉仕もありますが、今日は各会員がどのような行動をしたらいいのかについて絞ってお話しします。具体的にどんなものが職業奉仕なのか？こちらは昨年読売新聞に載った、塩糰という料理をおいしくする発酵食品についての記事です。江戸時代から320年以上続く糰屋本店のおかみさんが、塩糰ブームの火付け役になったと当時の安倍総理から表彰を受けたという記事です。彼女は文献を調べて糰で漬物がおいしくなるという内容を発見し、自分で試して使いやすい塩糰の形に作り直しました。多忙な主婦が助かるのではないかと東京のデパートで実演したら評判になってヒットしたそうです。

それに自信を得て塩糰を携え全国各地を行脚し、塩糰の使い方・アレンジなどを紹介しました。もちろん手弁当です。これが評価されて内閣府から「女性チャレンジ賞」を受賞したのです。この方が立派なのは『業界の皆さんのためになる』と営利を考えずに一所懸命啓蒙活動をした点にあります。そこに感銘を受けました。手弁当で一つの商材を全国に広げるというのは業界に対する大きな貢献で、職業奉仕でもあります。

では私たちはこれからどうすればいいのでしょうか？もちろんロータリー会員の皆さまはそれぞれ担っている職業があります。地域の皆さん、業界に対してどれだけ貢献できるか、奉仕ができるか大事だと思います。1987年にロータリークラブの理事会で採択された職業奉仕に関する新方針に「ロータリアン個々の事業は最も高度な道徳的水準を守り推進する」「ロータリアンの関わる職業のみならずあらゆる有用な職業の価値を認める」「職業上の知識・腕前を社会のニーズに役立てる」とあります。全ての仕事にこれに該当するとは思っていませんが、こういう気持ちで奉仕ができるのは良いことでしょう。個人としても事業においても、高潔さと高い倫理基準をもって行動することがロータリアンに求められることです。20世紀初頭にロータリーが結成された当時は、荒廃した時代に手を携え団結して事業を推進しようと望んだ動機も納得できます。時代と共に考え方も変化してきました。以前お会いしたセミナー講師の方はロータリーの綱領を全て訳し直したそうです。面倒なことを嫌がらず「英文を日本語に訳すと人によってニュアンスが異なるので改めて全文を訳し直した。何を守って何をしなくてはいけないかが大切で、そのために正しいロータリーの綱領を理解する必要があるから」と仰っていました。そういう立派な方がロータリアンにいらっしやいます。会員各自、考え方は少しずつ違います。委員会の中でも議論を重ねましたが、社会奉仕と職業奉仕は何か違うのか、線引きのはっきりしない難しいところはあります。しかし奉仕ということでは一緒です。社会奉仕は職業に関わらない部分での奉仕、自分の事業に関わる様々なご奉仕が職業奉仕であると私は思っています。日本古来の『奉仕』の意味合いを頭に入れておけば正しい行動ができるのではないのでしょうか。自分の身体を使い、見返りを求めず、人々に尽くすのが奉仕です。小田原ツーデーマーチなど、私は長い間小田原市のために協力してきましたがお金はいただいておりません。コンプライアンスを順守して世の中に恥じない事業をするということが地域や従業員に対する貢献であり、一般社会に広く恩恵を与える結果になると考えています。

